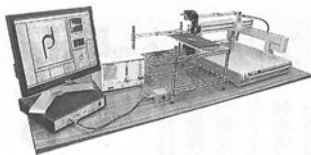


神奈川工業技術開発大賞

本業応用の中小多く

第27回神奈川工業技術開発大賞(主催・県、神奈川新聞社)を受賞したのは、本業で培った高い技術を応用した中小企業が多かった。成長分野での飛躍が期待されている。

■本記一面に
大賞のジャパンプローブ



ジャパンプローブの非接触超音波探傷システム

不二WPCが独自技術で
皮膜したアルミピストン



(横浜市南区、小倉幸夫社長)の「空気中で計測可能な非接触超音波探傷システム」は、超高出力の送信機と高感度の受信機を使う。液体につけられない対象も検査できるのが特徴で、携帯電話のリチウムイオン電池も検査できたという。同社は「国内に限らず海外でもいろんな検査に適用して

【地域環境技術賞】

▽「植物の生育促進に適したLED照明器」(キーストンテクノロジー=横浜市中区、岡崎聖一社長)。植物工場などで利用するLED光源を開発。生育段階に合わせ、赤、青色の光をバランスよく供給する。

▽「ワイヤー放電加工機用ろ過フィルター」(東海工業=厚木市、河西正彦社長)。リサイクルが可能で、交換式のフィルターを開発。ろ過性能を低下させずに、簡易着脱で低価格を実現した。

【奨励賞】

▽「グラファイト製アルミろう付炉」(関東冶金工業=平塚市、高橋慎一社長)。アルミ製部品の接合に利用されるろう付炉の保温板をグラファイト製にし、ろうの流れを良くする薬品の削減や、炉の寿命を向上させた。

▽「自律神経反射の即時解析モニター」(クロスウェル=横浜市西区、永谷基社長)。血圧、心拍と同時に自律神経反射をリアルタイムに解析するシステムを開発。ストレスから起こる体の不調やうつなどの処方に役立つ。

▽「金属箔(はく)のロール成形装置」(昭和精工=横浜市金沢区、木田哲朗社長)。リチウムイオン2次電池などの電極箔に、凸型に成形したロールを使って連続的に孔(あな)を開ける加工法と装置を開発。均一で高精度な孔開き金属箔を安価に作れる。

いきたい」と話した。同じく大賞の不二WPC(相模原市南区、下平英二社長)の「アルミニウム合金へのダイヤモンドライクカーボン(DLC)コーティング技術」は、アルミ合

金とDLCの間に中間層をつくることで密着性を高めた。内燃機関などの軽量化が期待できるという。下平社長は「付加価値の高い部品ができれば県の産業に貢献できる。中国では造れな

いような製品を造っていきたい」と話している。ほかの受賞技術・製品は表の通り。
 〓今後、紙面で順次紹介します。
 (山本 昭子)